

令和4年度調査研究事業 「ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究 ～1人1台端末の活用を通して～」について

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

「ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究～1人1台端末の活用を通して～」を研究主題とした今年度の調査研究事業について、蓮号、萩号、梅号と三号に渡り進捗状況を伝えてきたが、そんな本研究もいよいよ総括を迎える。横芝光町の五つの小学校と二つの中学校の協力を得て、それぞれ選出された研究協力員を中心に、各学校、事例検証に取り組んでいただいた。具体的な検証内容として、

- 1 1人1台端末（以下端末）に慣れる。
- 2 授業実践での活用事例を収集する。
- 3 授業と家庭学習の繋がりを意識した端末活用に取り組む。

の三点に絞って実施した。

1「端末に慣れる」ために、授業等の学習場面以外で、日常的な端末の活用として、「どんな場面での活用が可能で効果的であるか。」について、協議を行った。考えられる場面としては、「教員間での活用（校務）」「教員と保護者間での活用（主に情報発信）」「教員と児童生徒間での活用（主に連絡や情報交換）」の三つの場面を想定した。協議の結果、「教員と児童生徒間での活用（主に連絡や情報交換）」に絞って活用場面を検討していくことになった。具体的に、

- ①朝の会・帰りの会の連絡手段としての活用
- ②各授業または1日の振り返りを行うための手段としての活用

の二つの場面での活用を実施することになった。

①では、各学年、児童生徒の発達段階に合わせた活用方法についての課題が多く上がった。特に低学年では、明日の持ち物等の連絡については「『児童自身』に書かせたい」また、「『縦書きになっているもの』を書かせたい」等といった意見が上がった。

②では、移動教室や授業の特性等、様々な視点でたくさんの考え方がるので、1日の振り返りをまとめて行う手段とするのか、それとも、各授業での振り返りを行う手段とするのか、または両立させるのかなど、各学校で共通のルールを定めて取り組んでいただくことにした。これについても、選択項目に限定したアンケート方式で実施したり、記述項目を取り入れたアンケート方式で実施したりと、児童生徒の発達段階に合わせた活用を検討していただいた。

2「授業実践での活用事例を収集する」にあたり、「どの学年」で、「どんな機能」を「どれくらい」活用していくかということの目安となるように「活用のスモールステップ」を作成した。また、これをもとに、意見共有や協働学習、情報収集など、学習の「どの場面」で「どのような活用」を実施したのか、具体的な実践事例を報告していただき、一覧にまとめた。報告いただいた、授業実践の内容を見ると、意見共有の手段としての活用がとても多い。その他、カメラ機能やWeb検索を用いた情報収集としての活用、またはプレゼンテーションソフトや文書作成ソフトにより、情報の整理を行う場面での活用が見られた。

一方で、協働的な学習を行っていく場面での活用はあまり見られなかった。

3「授業と家庭学習の繋がりを意識した端末活用に取り組む」については、限られた期間の中で、全ての先生方が軌道に乗り、端末活用に取り組むことはとても難しいと考え、少しずつ慣れてきたという実感のある先生方に、ちょっとした活用から取り組んでいただけるように依頼し、実践内容の報告を得た。実施内容としては、

- Webサイトやカメラ機能を活用した事前学習を各家庭で行い、学校での授業で、情報共有や資料の整理、発表会を行う。
- プレゼンテーションソフトを活用したまとめ学習を授業で行い、終わらなかった部分について、各家庭で取り組む。

※各グループでの分割作業を容易にする利点で活用。

- 授業で各自が取り組んだ内容について、各家庭で振り返り、次の授業に活かすことを目的に活用。

といった内容が多かった。

以上の三つの検証をもとに、各校の教員が取り組んでいる様子から感じたこととして、

- 端末活用を定着させるうえで大切なことは、とても高度な取組をイメージし、端末活用に取り組むのではなく、できることから、

少しずつ、コツコツと取り組むことを組織立って行うことである。

- 情報活用能力だけではなく、児童生徒に身に付けさせなければならない様々な内容と両立させていくには、資料の見せ方や発信方法等、教員の端末操作スキルを向上させる必要がある。
- 学習の場面で端末をより効果的に活用するためには、端末の操作スキルを向上させるだけではなく、現行の学習指導要領や『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）にあるような『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善について考えていく必要がある。

※端末の活用が学習手段の置き換えのみに限定されてしまうと端末活用の幅も限定的になる。

ということだ。新しい取組につき、歩み出しにはとても時間がかかり、多くの課題を乗り越えていく必要性を感じたが、逆に歩み出しさえすれば、少しずつでも確かに前進していくことができるということを感じることができた。

※報告書の中では、作成したスモールステップや収集した事例等を記載している。詳しくは報告書をご覧ください。

◎◎ 講師派遣のお知らせ ◎◎ 県内の先生方を全力でサポートします！

- GIGA 端末・クラウドを活用して協働学習をできるようにしたい
 - プログラミング教育をさらに進めたい
 - 情報モラル教育を推進したい
- 等

教育の情報化に関する内容についてのアドバイスや教職員対象の研修講師を承ります。

詳しくは、県総セ Web > 学校支援 / 授業支援 > 情報・ICT 教育 > 学校支援をご覧ください。

